

## ケータイが増えて、減ったもの… 公衆電話のちょっとした話

京都府立大学 生命環境学部 山川 肇

あなたが、いちばん最近、公衆電話を使ったのはいつですか？覚えていないほど前ですか？東日本大震災のときという方もおられるかもしれません。東日本大震災のときには、携帯電話など他の電話がつかない中で公衆電話はつながりやすかったため、公衆電話に長蛇の列ができました。震災当日の首都圏の公衆電話通信回数は、前日の約15倍にもなったそうです。

このように公衆電話がつながりやすかったのには理由があります。実は公衆電話（ピンク電話を除く）は非常時の通信手段として優先電話に指定されていて、通信量を規制しているときでも通信規制を受けないのです。それで、かかりやすかったんですね。

また公衆電話は停電でも電話がかけられるようになっていました。公衆電話にはNTT東日本・NTT西日本（以下、NTT東西）の通信ビルから電話線を通じて少し電気が供給されていて、緑の公衆電話はそれだけで動くようになっています。

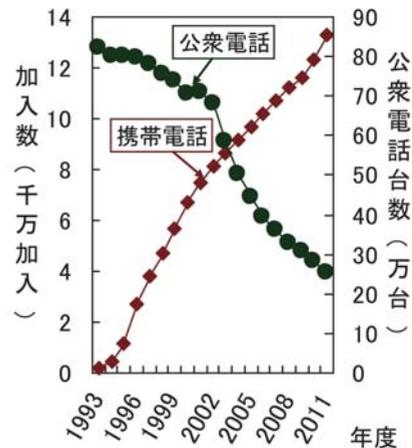
さらに東日本大震災のときには、一定期間無料でかけられたことも、利用が増えた要因でしょう。これはコインを溜める箱がいっぱいになると使えなくなるという問題を回避するための手段でもあるようです。実は阪神淡路大震災のときは、この問題で公衆電話が使えなくなってしまいました。その教

訓からこのしくみができただけですが、これが初めて適用されたのが東日本大震災のときだったのです。

このように災害時には頼りになる公衆電話ですが、いざかけようと思うとなかなか見つからないですよ。それもそのはず、公衆電話の設置数はこの10年間で激減しているのです。

図1に公衆電話の設置台数の推移を示します。参考までに携帯電話（PHSを含む）の契約数も示しました。明らかに携帯電話の普及に伴って減ってきたことがわかります。

公衆電話の通話回数は10年前の2002年と比べて、2012年には約1割にまで激減しています。これに伴い利用頻度の低い公衆電話が徐々に撤去されているのです。ただし公衆電話の一部



※情報通信白書(平成15年版・平成24年版)より筆者作成  
図1 公衆電話設置数の推移

は、ユニバーサル・サービス（すべての人に最低限保証されるべきサービス）に位置づけられており、市街地ではおよそ500m<sup>2</sup>に1台、それ以外の地域ではおよそ1km<sup>2</sup>に1台、設置しなければならないことになっています。そのかわりその義務的な公衆電話の赤字の一部はユニバーサル・サービス料から補填されています。こうした負担とのバランスは考えつつも、いざというときに機能するだけの数は設置して欲しいところです。

なお現在、NTT東西のWEBサイトから公衆電話の場所を検索して地図で確かめられるようになっています。昔の黒電話ならいざ知らず、今のほとんどの電話機は停電のときには使えませんし、近くの公衆電話の場所を確認しておく、いざというときに安心ですね。総務省が災害時の公衆電話の使い方などを「公衆電話の特徴と使用方法」（[http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000254463.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000254463.pdf)）に簡潔にまとめています。ぜひご覧ください。

ところで図1で見たとおり、近年は毎年2～3万台ずつ減少している公衆電話、その撤去後の行方も気になるところです。公衆電話のうちピンク電話以外は、現在NTT東西が設置しており、回収・リサイクルもNTT東西が実施しています。このリサイクル状況

についてのNTT東日本の報告によると、公衆電話BOXは、アルミニウム、ステンレス、ガラスやプラスチック等に選別、公衆電話機は基板や銅線、各種プラスチック等に選別され、再生工場等に送られて、レアメタルや銅、ペレット等によりリサイクルされるということです<sup>2)</sup>。2011年度にはNTT東日本により公衆電話機163tonと公衆電話BOX 384tonが撤去されましたが、公衆電話機の100%、公衆電話BOXの99.9%がリサイクルされたとのこと、しかも約99%は燃料ではなく材料としてのリサイクルということです。NTTもなかなかがんばっていますね。



公衆電話にて

出典：公衆電話記念日 MOMENTARIUM<sup>3)</sup>

なお本稿は、山川肇：電話・インターネットに関する機器・設備の3R、廃棄物資源循環学会誌、第24巻、第3号、pp.196-201（2013）の一部を加筆修正したものです。

#### 参考文献

- 1) 情報通信審議会：「災害等緊急時における有効な通信手段としての公衆電話の在り方」答申（2012）  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000148585.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000148585.pdf)
- 2) NTT東日本：CSR報告書2012ダイジェスト版、pp.14-15（2012）  
<http://www.ntt-east.co.jp/csr/regular/download/pdf/csr2012.pdf>
- 3) MOMENTARIUM：公衆電話記念日（2007）  
<http://www.momentarium.org/experiments/payphone/photos.shtml>